



# 『セキュリティ、 日防設への思い』

公益社団法人 日本防犯設備協会 常任理事  
三菱電機株式会社 トータルセキュリティー事業推進部長 松岡 正人



リレートークということで私とセキュリティシステムや日防設との出会い、思いを述べたいと思います。

私とセキュリティシステムとの出会いは もう27年前、昭和61年(1986年)のことでした。仕事で特殊施設のセキュリティシステムのシステムエンジニア(SE)を担当することになったことからでした。またほぼ時を同じくして設立したばかりの日本防犯設備協会(日防設)の委員会に参画し、空港のセキュリティシステム(警備保安管理システム)基本調査の一端を担当することになりました。

日防設では空港のセキュリティシステムを大きく5つの機能(状況監視・入退室管理・侵入警戒・荷物検査・連絡通報)に分類し、それらを統合管理するセンターシステムという概念を初めて打ち出しました。これを各メーカーの専門技術者が集まりオーソライズしたのです。また海外の空港やメーカーを広く調査、現地ヒアリングも実施しました。当時はもちろんインターネットなどはなく海外調査は大変でした。またセキュリティシステムに関してはデバイスからソリューションに至るまでたくさんの明確な技術課題があり、大学卒業3年目の若手技術者はしきれだった私は日防設に参加し、他社技術者と海外に共に調査に行き、議論をすることだけでも胸躍らせたものでした。

技術課題でいうと例えば防犯カメラでは当時ようやく撮像管がCCDになり、半導体の進展とともに劇的に安価に、性能もアップしていました。入退室管理では磁気カードで電気錠を開けるシステムが電算機室向けに出だし、指紋照合装置などは大きさ縦1m、指を置いて判別するまで5秒もかかって1台500万円という代物でした。さらに情報処理をするコンピュータに至ってはキロバイトメモリが主流で1000×1000ドットで奥行き8ビットの1枚の画像を分析処理するのに1晩もかかっていました。今、考えると隔世の感ですが当時は少しでも性能良いものを早く開発する、ことを主眼に毎日残業しながら真剣に国内外の他社と競争していました。

しかし思えば良い時代だったとも言えます。今はセキュリティの分野でこれを開発すれば確実にニーズに合うので早く頑張れという「わかりやすい」技術開発テーマがありません。候補としては万引きする人や不審者を見つける技術、誤報無く確実に侵入者を検知する技術、巧妙化する爆発物を発見する技術、サイバーテロ対策などなどありますがいずれも解決するための技術課題がもやつとしていて(言い換えると要求機能仕様が不明か不可能)、明確な技術開発テーマにはなっていません。言ってみればアイデア勝負、ソフトウェアの世界で勝負しようとしているものが多いように感じます。日本の得意なものづくり、真面目に一つずつ積み上げた高い品質と技術の先に実現できるものが少ないよう思います。

またセキュリティシステムは個々の機器やシステムを如何に効果的に配置し、使うかを良く考えなければならない　いわばソリューションシステムです。この面でもこの20年大きく変わりました。当時セキュリティシステムはSEがお客様と運用を相談、打合せながら一つ一つ構築していくシステムが殆どであり、高額なシステムでした。お客様もよく知らない、使ったことのないシステムだからでした。ところがそれがお客さまも普通に知るようになって一般化し、当たり前の機器を買う感覚になりました。同時に競争も激化、価格も下落し標準化してきました。もちろんセキュリティシステムが広く普及して、社会の安全に貢献するとともに業界が大きくなるなど良い面もあった訳ですが、先ほど述べた技術開発テーマの行き詰まりとともに仕事は増えども利益なき繁忙で、業界全体が停滞している様に感じるのは私だけでしょうか？

使う側から見てもあたりまえになりました。カードはICカードなどが普及するとともにカードリーダーにタッチすれば扉が開錠することに今は違和感がありません。防犯カメラはエレベーター、エントランス、パブリックスペースに当たり前のように設置されています。以前はプライバシーとのせめぎ合いがありました。それも2001年の同時多発テロ以降は「安心・安全」が優先されるようになり、この10年で一気に拡がりました。

そんな中、日防設も信頼性のある防犯機器の普及に努め、それらシステム機器を扱う人のレベルを高める防犯設備士の拡大に努めてきました。ただ残念ながらここ何年かは防犯設備士受験者数や会員会社数の減少に悩んでいます。原因は多々ありますが魅力を（特に若者に）感じさせてない業界になっているのではないかと思います。かつて私自身が胸躍らせて取り組んだようにセキュリティは伸びる市場で、社会に必要とされ、技術者が強く惹かれる開発テーマがあるところにしなければいけません。もちろん日防設会員諸氏は毎日、世の中のニーズは何か、魅力ある業界・日防設とは何かを考えて苦闘しています。

セキュリティシステム市場そのものは同時多発テロのように世間を騒がせる事件事故、イベントなどがあると大きく変化します。未来に目を転じれば2020年の東京オリンピックもその一つです。2020年に向けて様々な新しいセキュリティシステムが提案され導入されるとともに運用面や制度面でも整備されていくでしょう。大きなビジネスチャンスです。ただ技術開発については日本のものづくり全体に問われていることでもあり簡単ではありません。セキュリティシステムの技術課題に関する議論は老若男女、地位経験にわけへだてのない日防設は良い場です。ぜひとも広く、特に若手技術者の参加を期待したいと思います。

全世界を見ればセキュリティシステムが広く導入されているのは先進国だけであり、まだまだ大きく拡がる市場です。また国防は別にして、セキュリティ業界は信頼信用を最も必要とされている業界であり、日本は技術だけでなくその面でも秀でています。必ずや世界をリードする国となるでしょう。そのためにもセキュリティシステムの魅力や面白さをどう発信、伝えていくかを考え続けて行きたいと思います。